

## 2. 教育実習指導

教育実習については、各学部における運営担当部署（教育実習委員会・教務委員会等）と連携を図りながら、特に事前事後の指導に関わってきた。教育学部と、農学部・人文社会科学部・理学部との間では教育実習カリキュラムが異なっており、センターの関わり方、担当する指導場面等も異なっている。以下、教育学部とその他の3学部に分けて、今年度の取り組みの概要を述べる。

### 【教育学部】

※教育学部においては、「教育実習委員会」が教育実習の運営業務にあたるが、全学教職センター専任教員2名（昌子佳広、五島浩一）が同委員会に所属し、事前事後指導を担当している。

#### (1) 事前指導（1年次対象）：「教育実習指導Ⅰ」

- ・受講者は、学校教育教員養成課程1年次（全学生必修）、養護教諭養成課程1年次（希望者：中学校・高等学校教員免許取得予定者）、大学院教育学研究科1年次「教員免許取得プログラム」受講者（教育実習履修予定者）、計約300名。
- ・4月、4年間の教育実習カリキュラム全体の説明を含めた授業ガイダンスを行った。
- ・7月、第1回授業（講義）を実施。この授業での到達目標ならびに教育実習・教職課程全体に対する取り組みの心構え等について指導を行い、夏期休業期間中の課題（恩師一小学校・中学校・高等学校時代に指導を受けた先生一にインタビューを行い、その成果をレポートにまとめる）を提示した。
- ・同、第2回授業（講義）を実施。9月に行う附属小・中学校訪問、見学のための事前指導を行った。今後、教育実習そのものを含め、学校現場へ出向き、見学等を行う機会が多くあるので、その際の基本的な心構えや留意すべき事項（服装、学校内での言動、見学・参観の観点など）について指導した。
- ・9月、附属小学校・中学校訪問・見学（授業参観）を実施。小・中学校それぞれ4日間の訪問日を設け、学生全体を4つのグループに分けて、各グループの訪問日を4日間のいずれかに割り振り、小学校、中学校に1日ずつ（午前のみ）訪問するようにした。学生はレポート（所定様式）に見学・参観した内容を記録し、考察を行う。また所属コース・選修ごとに、見学・参観の成果をもとに討議を行う学習会を行った。
- ・12月、4年次の教育実習（茨城県内協力小学校・中学校での実習、希望者対象の帰省（母校）実習）に対する事後指導と兼ねた形で、4年次の実習成果を聞く学習会（グループ懇談・討議など）を行った。
- ・2月、センター主催シンポジウム「教職の魅力について 現職の先生と語り合う」に参加を呼びかけた（任意）。1年次では77名が参加した。

## (2) 事前指導（2年次対象）：「教育実地研究入門Ⅱ」

- ・受講者は、学校教育教員養成課程2年次（全学生必修）、養護教諭養成課程2年次（希望者：中学校・高等学校教員免許取得予定者）、大学院教育学研究科1年次「教員免許取得プログラム」受講者（教育実習履修予定者）、計約300名。
- ・4月、授業ガイダンスを行った。
- ・5月より、定期授業を開始した。2クラスに分け、教職全体に関わる講義、演習（グループ討議など）を行いながら、6月、7月に2回（各半日）、11月に1回（一日）の3回にわたり、水戸市内の公立小・中学校の見学・授業参観、教育活動への部分参加（児童・生徒との交流など）等の活動を行った。

11月に行った一日を通じての学校体験は、本年度初めて設定したものである。この日、教育学部教員の理解の下で2年次対象の授業を休講とする措置をとり、受講する全学生が参加することができた。学校生活の一日を通じて、さまざまな教育場面を参観・見学・体験することで、教員の職務の実態や、児童・生徒の実態をよりよく理解することができたと思われる。
- ・11月、3年次の教育実習（附属小学校、中学校での実習）に対する事後指導と兼ねた形で、3年次の実習成果報告を聞く学習会（グループ懇談・討議など）を行った。

## (3) 教育実習事前（直前）指導・事後指導（3年次・4年次対象）

- ・5月、4年次実習（春期協力実習校）に対する事前（直前）指導を実施。教育実習に向けての具体的な準備内容等についての伝達や指導、終了後の提出物等の確認を行った。
- ・6月、3年次附属小学校・中学校実習に対する事前（直前）指導を実施。指導そのものは附属小学校・中学校の教育実習主任の先生が担当。大学で1回、学校現地で1回の指導を行った。学校では、指導担当の先生（教科指導・学級担任）との面接（面談）、担当学級児童・生徒との対面・交流などが行われた。
- ・7月、4年次実習（春期協力実習校）に対する事後指導を実施。全体指導（センター専任教員からの講話）の後、実習成果についてのグループ協議を行った。
- ・同、4年次実習（秋期協力実習校）に対する事前（直前）指導を実施。内容は春期と同様。
- ・11月、3年次附属小学校・中学校実習に対する事後指導を実施。全体指導（附属小学校・中学校教育実習主任による総括講話）の後、コース・選修単位に分かれて学習会（実習の成果について相互に報告し討議するグループ協議を中心として）を行った。附属小中学校での教育実習を翌年度に控えた2年次が参加しているので、2年次に向けての報告と、質問・相談等に3年次が答える機会を設けた。
- ・同、4年次実習（秋期協力実習校および帰省（母校）実習を含めた4年次での実習全体）に対する事後指導を実施。全体指導（実習協力校である公立学校の先生（学校長）の講話）の後、コース・選修に分かれて学習会を行った。内容は3年次の場合と同様。前述(1)の通り、こちらには1年次が参加した。

#### (4) その他

- ・教育実習に関する学生個別の相談（教材研究や授業構想に関すること、児童・生徒指導に関すること、など）に対応した。
- ・3年次の附属小学校・中学校実習に関しては、随時学校へ出向き、学生の様子を見るとともに、各校の先生から指導状況について聴き取り、確認を行った。
- ・研究授業の VTR 撮影を行った（全学生の授業をデジタルビデオカメラで学生相互に撮影、終了後 DVD に録画、保管する）。
- ・上記の VTR（DVD）の貸出（学生または学生の指導教員等）・管理を行った。

#### 【農学部・人文社会科学部・理学部】＊工学部は教育実習実施者はなし

※以下の全ては、農学部については阿見キャンパスで、人文学部と理学部については合同で水戸キャンパスでそれぞれ実施したが、内容は3学部に通共通のものである。

#### (1) 教育実習オリエンテーションⅣ（4年次対象）

- ・4月実施。本年度に教育実習を行う4年次学生に対して、直前段階での心構えや、具体的な準備内容についての伝達や指導、大学側と実習校側で取り交わす文書の確認などを行った。

#### (2) 教育実習事前指導Ⅰ（3年次対象）

- ・4月実施。次年度に教育実習を行う希望・予定の3年次学生に対して、教育実習に向かう心構えに関する指導、現時点までの単位修得状況（教育実習履修要件）の確認、本年度当初（7月まで）に行うべき、教育実習先学校（母校である高等学校か中学校）への事前申込み・内諾を得る手続き等の説明・伝達を行った。

#### (3) 教育実習事前指導Ⅱ（3年次対象）

- ・12月に実施。実習校への事前申込みの手続きを行い内諾を得た学生に対して、教育実習における学修内容を改めて説明し、実習に対する自らの目標を明らかにすることなどについて指導した。また、実習を終えた4年次学生への事後指導（次項参照）を兼ねて、4年次の実習成果に関する報告を聴き、教育実習の実際について理解する機会を設けた。

#### (4) 教育実習事後指導（4年次対象）

- ・12月、(3)の同日に実施。本年度に教育実習を行った4年次学生が、教育実習期間を通じて記録・作成した『教育実習履修簿』や、実習終了直後に作成・提出したふりかえりレポートに基づいて自己の学習成果をまとめ、後輩となる3年次に向けて報告・発表することを中心として行った。人文社会科学部・理学部では教科(国語・社会(地歴・公民)、英語、数学・理科(物理・化学・生物・地学))別・校種別にグループ(4年次・3年次それぞれ3～4名程度)を編成し、グループ懇談の形で行った。農学部では3・4年次の全員で懇談を行った。

#### (5) 教育実習事前指導Ⅲ（3年次対象）

- ・ 2月に実施。(3)において記述したレポートに基づき、自己の教育実習における目標の再確認、見直しを図り、目指す教師像や、自らのもつ教育観を確かにする事、また履修簿を参照しながら教育実習の具体について見通しを持ち、道徳を例として授業づくりの基礎的・基本的な考え方について指導した。

#### (6) 教育実習事前指導Ⅳ（教科別）（3年次対象）

- ・ 2月～3月に実施。教育実習における授業実習で担当する教科（教員免許状取得予定教科）ごとに期日を設定し、各教科指導を専門とする外部講師（中学校・高等学校の現役の先生など）から3コマ分（90分×3回）の指導を受ける機会を設けた。各教科における指導の目標や、教科における指導内容の枠組み、教材研究のあり方、学習指導案の一般的な形式や作成の仕方、授業における留意事項などの理解、模擬授業の体験などを主な内容として実施された。



模擬授業の様子

#### (7) 教育実習ガイダンス（2年次対象）

- ・ 2月に実施。水戸キャンパスで行い、工学部・農学部はVCS配信とした。4年次で教育実習を行うためには、2年次末の段階で実習校（母校）に仮申し込みをしなければならないので、その手続きに関する説明を中心とし、また仮申告カードを提出させて教育実習実施人数と学部・教科別の割合などを把握した。

### 【成果・総括】

当センターの本格的な業務開始から3年が経ち、特に人文社会科学部・理学部・工学部・農学部において当センターが入学時の教職オリエンテーションから一貫して支援・指導を担当してきた学生が今年度で3年次となった。複数の学部にわたる指導において、センター内の分担のあり方も次第に整い、各学部の教育実習運営担当部署（教育実習委員会、教務委員会）や事務部との連携・協力の面においても安定しつつあるように思われる。

教育実習を終えた学生は、実習を通じて自らの教職適性を見極め、あるいは教職に就くことを断念する学生もあるが、多くの学生にとって教育実習は有意義で充実したものであり、教職への志向をより高める方向に機能している。さらなる指導と支援に注力していきたい。